

c. 経験・知識が不足していた。

・活動内容が、自己の能力や技量を超えていた。	いいえ
・活動中に起こりうる危険について認知していなかった。	はい
・活動に対する経験が不足していた。	いいえ

d. 心身の不調があった

・体調が悪かった。	いいえ
・悩み事があった。	いいえ

○装備・資機材について

e. 資機材の故障・不具合があった。

・装備・資機材自体に問題があった。	いいえ
・装備・資機材の使用方法が誤っていた。	いいえ
・装備・資機材の対処能力を超えていた。	いいえ
・必要とする装備・資機材がなかった。	いいえ

○活動環境について

f. 障害物や自然環境（雨・濃煙）によって視界がさえぎられた。

・障害物（建物等）のため周囲の状況が見えなかった。	はい
・特異環境（煙、暗闇、降雨等）のため周囲の状況が見えなかった。	はい

g. 行動しにくい環境だった。

・狭隘な場所であった。	はい
・暑かった（寒かった）。	いいえ
・野次馬が多かった。	いいえ
・現場周辺の地理に不案内だった。	いいえ

h. 足場が悪かった。

・足元が躓いたり滑りやすかった。	はい
・足元の強度が不足していた。	いいえ

○指揮・管理について

i. 適切な指示が得られなかった（適切な指示を与えられなかった）。

・活動指示が得られなかった。（無線が通じない等。）	いいえ
・指示内容に誤り・偏りがあった。	はい
・指示内容が実施困難であった。（周辺環境に、隊員技量の把握に欠けた。）	いいえ

k. 関係者間の情報伝達・役割分担が不十分だった。

・隊員の連携が不十分だった。	いいえ
・隊員が不足していた。	はい

○その他

l. その他の理由があった。

はい：危険物の所在について、活動前に情報が得られなかった。予想以上の保有量であった。
--

【事故発生後の取り組みについて】

.....

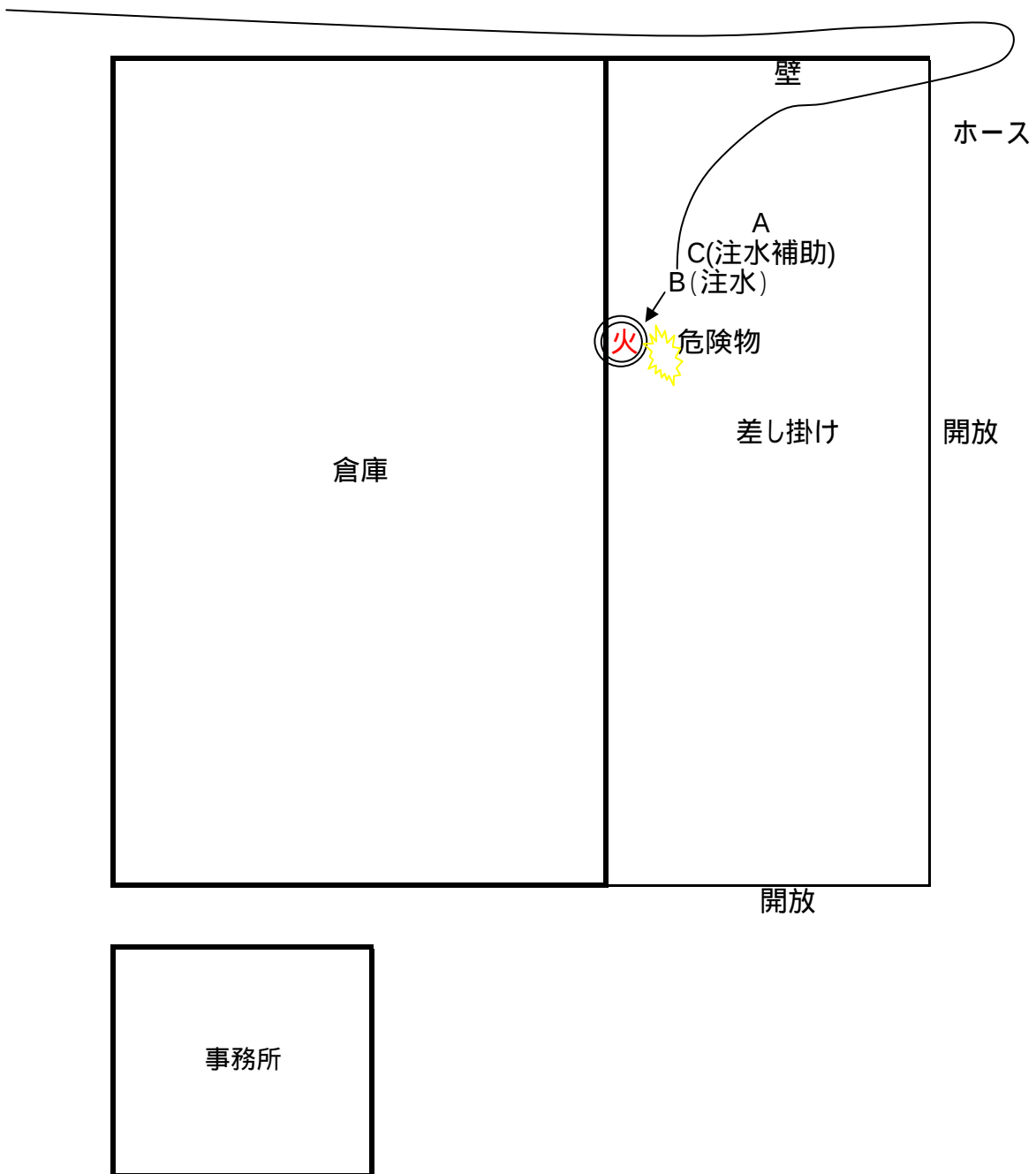
○注意力欠如、焦り等の対策について

○装備・資機材の対策について

○活動環境の対策について

○指揮・情報伝達の対策について

ヒヤリハット発生状況図



・発生日時：平成20年6月2日 午前0時頃

経過	現場の状況	隊員A(複数隊の隊長)		隊員B	隊員C	備考
		複数隊の隊長／消防司令補 ・年齢 47 歳 ・勤続 29 年 ・現場 29 年 ・同様の活動:頻繁		隊員／消防司令補 ・年齢 45 歳 ・勤続 25 年 ・現場 25 年 ・同様の活動:頻繁	隊員／消防士長 ・年齢 34 歳 ・勤続 12 年 ・現場 12 年 ・同様の活動:頻繁	
	出動指令 現場到着 倉庫の差し掛け部分 ホース延長 直近部署、火点に向け放水開始(放水長) 筒先員交代 火点に向け放水継続(放水長B・補助員C) 状況報告のため一旦車両側に5メートルさがる。 出火対象物が危険物を違法に保有しており、小爆発が起る 濃煙熱気に包まれたため、一旦引きさがる。 火災出動 隊員が危険物の存在に気付かず放水をしたためにボイルオーバー現象が起こった。					

◎ヒヤリハットで済んだのはどうしてだと思うか？
○直接的な原因:行動の実行に問題があった。 ・体力、反射神経等身体能力が優れていた。 ・危険情報を把握、予見できた。 ・集中力、注意力があった。 ・指揮者が適切に指示した。 ・後方からの監視の目が行き届いていた。 ・他隊(員)との連携活動がうまくいった。 ・予めある程度の危険物保有を予測していたため、放水距離を保たせた。
◎ヒヤリハットが起きた背後要因
(心理・体調について) ・1つの事象に集中し、他の事象への注意力を欠いた。 ・活動中に起こりうる危険について認知していなかった。 (活動環境について) ・障害物(建物等)のため周囲の状況が見えなかった。 ・特異環境(煙、暗闇、降雨等)のため周囲の状況が見えなかった。 ・狭隘な場所であった。 ・足元が躓いたり滑りやすかった。 (指揮・管理について) ・指示内容に誤り・偏りがあった。 ・隊員が不足していた。 (その他) ・危険物の所在について、活動前に情報が得られなかった。予想以上の保有量であった。